

客室乗務員の保安任務遂行に求められる疲労リスク管理 【2024 年 1 月 2 日羽田事故の教訓から】

生井良江 NPO 法人「航空の安全・いのちと人権を守る会」理事

《報告要旨》

今年1月2日の羽田空港衝突事故の教訓として、客室乗務員の保安要員としての重要性が改めて浮き彫りになった。航空輸送産業は「安全」なくしては成り立たない。「安全」を担っていくには、現場に携わる労働者一人一人が蓄積疲労・過労の状態に陥らないための労働環境の整備が喫緊の課題となっている。客室乗務員に対しても、疲労リスク管理(FRM)導入後の具体的基準作りが早急に求められる現状を報告する。

以上、労働者を大切にし、人間らしい働き方や労働者が本来持ち合わせている「労働の喜び」が得られる労働環境を整え直さなければ、あらゆる問題(事故や労働災害を含め)が今後さらに突き出す可能性があることに警鐘を鳴らしたい。

[2024-08-25 版]